

2013年(平成25)3月

カルメル 霊性センターニュース



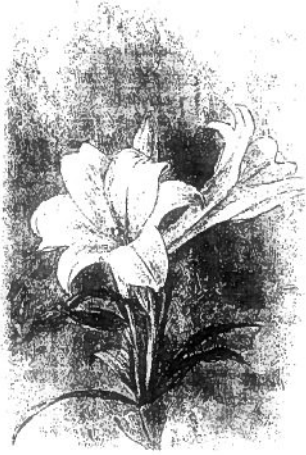
2013年3月

285号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	21
諸所の企画案内	39
年間購読(郵送)のご案内	48
編集後記	49

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十五章 生活を熱心に改める

5 よい模範に従いなさい

自分を改善するためには、どんな機会ものぐすな。だから、よい模範を聞いた
り見たりすれば、それにならうように励みなさい。また、人に非難すべきこと
を見たならば、自分がそれをおこなわないように心がけ、もし、罪に陥ったこと
があるならば、すぐに改めるようにしなさい。あなたが他人を注視しているように、
他人もあなたに注視の目を向けている。熱心で、敬虔な、品行のよい、規律正し
い兄弟たちを見るのは、どんなに喜ばしいことであろう。それに反して、召し出
された道はずれ、規律を踏みにじって生活している兄弟を見るのは、どんなに
悲しく見苦しいことであろう。自分の召し出しの義務をないがしろにして、課せ
られていないことをおこなおうとするのは、実に有害なことである。

6 十字架上のキリストとの同化

自分で定めた決心をいつも記憶し、キリストの十字架に目を向けなさい。イエ
ス・キリストの生活を黙想すれば、あなたは大いに恥じ入るところがあるはずで
ある。なぜなら、すでに長く神の道を知っていても、いまだに自分自身の生活を、
キリストにならうように努めていないからである。敬虔に、注意して、主の聖な
る生活と受難を顧みる修道者は、自分にとって有益なことをすべて、そこに豊か
に見いだすであろう。ああ、もし十字架上のイエスが、私たちの心に来られるな
ら、どれほどすみやかに、そして完全に、そこから教えをくむことであろう！

信仰年に

神と親しく生きるために — 3月 —



今年は3月の最終日のご復活です。このページを繰る頃は、まだ四旬節半ばの道程を歩んでいる日々に・・・イエスと親しく生きるためにマリー・エウジェンヌ師の「十字架の道行き」の一部をお届けします。

第一留 —— イエス、死刑の宣告を受ける

この宣告を 主よ、あなたはどのように受け止められたのでしょうか。

あなたは「いのち」であり、いのちを与えられる方。

イエスの体は震え、魂も打ち震えています。命である方が、死の宣告を受けるとは。全能である神が、いくら自ら望まれたとはいえ、現実に恐れにおののく人性を持っておられるとは。死の宣告を前にして、確かにあなたは震えておられる。死とは、聖母マリアが与えられた体と、聖霊の与えた魂が分かたれること。もちろん、神性は常にあなたの体と魂に留まっている、でも人としての魂と体は別れてゆく・・・。この死の時は 私たちにも訪れ、その時 魂と体は離れてゆく。

イエスよ、あなたが「その時」震えられたように、私たちが死を前にして、身震いする事でしょう。あなたは「いのち」であり、あなたの死の功德によって、私たちにも死を受け入れる事を教えてください。あなたも死を受け入れられたのですから、死の本当の姿を見る事ができるようにしてください。

第二留 —— イエス十字架を担う

主よ、処刑の道具が運ばれてきます。

この十字架は大いなる苦しみの象徴、与えられるのももどかしく、あなたは十字架を抱かれる。このしぐさは祝福となり、十字架はこの時より、私たちの希望となる。主は十字架を抱かれ、その上に釘付けられる。

主よ、この刑具、十字架を拝みます。そして同時に私自身の十字架も拝みます。それは、苦しみ、試練、そして特にあなたが経験されたように、私たちにも訪れる死を意味しています。今から前もってすべてをお受けします。私の聖化にあなたが必要だと思われるすべての苦しみ、そして教会の神秘体を作り上げるための私たちの使徒職の一部である苦しみを。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈7〉

くのり
九里 彰

クーパンの中心街に、カルメル宣教修道女会の修道院があった。訪問したところ、大きな犬がワンワンと激しく吠え始め、困っていると、シスターが出てきて犬をつないでくれた。中に入ると、あいにく他のシスターたちは、みな何かの記念のミサ（忘れてしまった！）にあずかるため、カテドラルへ外出中とのこと。残っていたのは、5人の志願者たちとそのシスター（志願者担当？）のみであった。とはいえ、6人もいる。

皆来年は修練期に入るそうで、とにかく若い（十代？）。ベルト神父いわく、彼女たちは皆、終生誓願を立てる前に、少なくとも3年、フィリピンへ行くそうである。この会も、男子カルメル会同様、召命は多い。彼女たちと紅茶を飲みながら、しばらく歓談する。みな明るくオープンである。

夜は、神学生たち（哲学勉強中）とは別行動を取る。共同体の5人の司祭のうち一人は、使徒職で出かけているため、管区長、ベルト神父ら4人の神父たちと、海辺のレストランで最後の晩餐となる。

翌日も4時半に起床。朝の祈り（5時半）の後、ミサを捧げる。私が司式し、フェリクス管区長が説教。その後、朝食。自室を掃除し、出発のため荷物をまとめる。11時過ぎに早めの昼食を一人で取り、12時に空港へ行く。空港まで管区長が見送りに来てくれる。後は、一人でデンパサールへ行くこととなった。

チェックインし、待合室で待っていると、インドネシア語でアナウンスがある。どうも私の名前が呼ばれたようなので、スタッフに尋ねると、目の前でチケットの座席番号が変更される。何が何だかよく分からないまま搭乗すると、ビジネスクラスに案内される。どうやら最初にクーパンに来たとき出会った空港の人（フェリクス管区長と親しい信者さん）が私に便宜をはらってくれた模様。真相は、今もって私には分からない。

デンパサール空港には、会議中にも世話になったカルメル在世会員のアルベルトが迎えに来てくれていた。彼の車で、会議の時に利用した教区の黙想の家に行く。今回は狭い部屋を取る。トイレ、シャワー付きだが、洗面所は外の共同の洗面所の利用となった。（続く）

四旬節第3主日(C)

ルカ 13: 1-9

四旬節第3主日に、教会はキリストと一致してよりよく御父のみ旨を生きるために、今すぐに悔い改めることを勧めます。

今日の福音で、何人かがイエスのところに来て、神殿の聖域で数人のガリラヤ人がピラトの部下に殺されたことを告げています。これに対してイエスは、突然の死を余儀なくされた人たちについてお話になります。このような禍に遭う人は、倒れたシロアムの塔の下で死んだ18人も同様、罪人であったからだとして決して考えてはならない。この地上のどんな所もどんな職業も全く安全なところは無い。だからこれらのことを自分への戒めとして受けとめ、常に御父のみ旨を生きているかを反省し、悔い改めるよう仰せになります。イエスは、天の国はもうすぐ手の届く所にあるのだから悔い改めなさいと命令されます。そしてもう一度滅びから免れるために悔い改めよとお命じになります。“言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。”いつでも神の御前に安心して立てるよう、この世の不測の事態に備えていなければなりません。今わたしたちが出会っているたくさんの悲しい出来事、悲劇は神の罪人に対する断罪ではありません。むしろ私たちはこのようなはかない、予測できない状況の中で、普段の生活を愛において丁寧に反省し、心から悔い、改め、神のみ前に立つ準備をしておくべきです。

いちじくの木のとえでは、3年経っても実をつけないいちじくの木に対し、切り倒すよう命じる主人に、園丁は今年も懸命に世話をしてみるから、もう1年このままにしておいてほしいと懇願しています。このたとえを読むわたしたちは二つの立場の人を思い起します。“与える人”と“受ける人”です。“与える人”は自分のことよりも相手を思い、相手のために自分を与え尽くして自分の存在目的を全うします。自分の持っている全てを与え、寛容を生きる人です。“受ける人”も自分の立場を正当化し、受けることによってその存在目的を全うします。キリストのメッセージを受け入れ自分のものとして生きる人は、回心に導かれ、悔い改めの日々を過ごします。その日常はだんだんに豊かな実りを得て、創られた目的を全うする“与える人”となっていきます。

四旬節の間、わたしたちは常に主に祈り、回心し悔い改めの生活を続ける恵みを願いましょう。実りの無い自分を正直に認め、主のためにより実を結べるよう自分を変えていまいしょう。一本一本のいちじく、わたしたち一人一人はキリストの神秘体を構成する他の人の働きや徳の実行によっても実りを得られます。主によって置かれた場所で主の望みに応え、主のみ旨のうちに生きるよう努力していきましょう

(Sr. Paulina)

「子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ」(ルカ 15, 31)。

これは、「放蕩」を尽くして帰ってきた弟を喜び迎え、そのために大宴会さえも催す父親に対して、兄が非難をこめていった言葉への、この父親のお返しの言葉です。そうです。唯一つのものを除いて、父親のものは全部、この兄のものです。その一つものとは、それは、父親の心、「憐れみの心」です。このたとえ話は、「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄ってきた、すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、『この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている』と不平を言い出した」、そのときイエスが話し始められた三つのたとえ話の最後のもの、その頂点にあるものです。そうですから、このたとえを「放蕩息子」の改心の話とするよりは、長男、真面目な、掟を遵守していると自負する人の真実な改心への招きの話しとする方が、良いのではないのでしょうか。

確かに、この長男は、父親が断言するように、「父親のものは全部」自分のものだと言えるのでしょうか、ただし、一つのことを除いて。その一つの父親のもので長男が受け継いでいないものとは、父親の心の内のもっとも深いところにあり、すべての判断、行動を方向付け、活性化している「憐れむ心」なのです。「まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走りよって首を抱き、接吻した」。「憐れに思う」、この言葉は、以前にも述べたことですが、ヘブライ語のラハミーンに対応するもので、痛む愛、お腹を痛めた子に対する母性的慈愛から来ています。また、自分にこだわっていないで、相手の身になって「思いやる想像力」、「思いやり」の能力とも関係しています。兄は、この痛む愛以外のすべてを受け継げるとしても、この愛、父親の命であるものは、受け継げないのです。そして、わたしたち人間は、この父親の命、愛は、受け継ぐことができるだけで、自分で考案することも、ましてや創造することも、生きてゆくことも、できないのです。ただ、ただ、受け継ぐ、無償の、無条件の恵みとして感謝の内に受け取る、これ以外にはすべはないのです。もし、今、この愛を生きていると思えるなら、それは、わたしたちが善人であるからではなく、神の愛が先に注がれているから、と考えましょう。真の改心とは、この愛に生かされ、この愛との対話、交流の内に、わたしたち自身が愛に変えていただくことです。 ルカ渡辺幹夫

四旬節第5主日(C)

みことばのひびき

(ヨハネ 8:1-11)

本日の福音のエピソードは、自分自身を調べ他人は批判しないようにということを強調しています。私たちには概して他人の欠点を見つけ出して非難する傾向があります。また、自分が傷つけられたことを長い間忘れず、なかなか許すことができません。ミサで私たちは繰り返し主から許しを願いますが、心の中に恨みを持ち続けます。四旬節が終わりに近づくにつれ、私たちは神の特別な恵みと一体となるのにより機会を思い出します。

本日の福音では、律法学者とファリサイ派の人たちの残酷さや邪悪さとイエスの憐れみとの対比が示されています。律法学者とファリサイ派の人たちは姦通の罪で捕えられ主人のところに連れてこられた女の人には何の関心も持たず、イエスを罠にかけるために彼女を利用することだけに関心を持ちます。イエスは憐れみを持ち、この重大な罪をていねいに扱います。イエスは告発した人も告発された人も両者とも咎めます。自分たちの心の中を深く見て調べるよう両者に求めます。イエスは、「行きなさい。これからは、罪を犯してはならない。」という言葉で最後に言われます。この言葉は最後まで忘れられることはありません。イエスはこの女の人を新しい人に変えます。

この福音のこぼれ話を黙想すると、イエスが試みに勝ち女の人が命を取り戻したことが分ります。イエスは罪を認めないから再び罪を犯さないようにとこの人に言います。そして罪は恐ろしいものであるから、この人が変えられた人生を歩むようにイエスは望まれます。イエスは彼女を許します、これは神の行為であります。実に、人がとるべき最初の一步は罪の源、すなわち心に対処することです。(これに関連することですが、自分の中で二匹の狼、一匹は悪い狼もう一匹はよい狼が戦っているという話をする一人の父親がいます。どちらの狼が勝ったかという息子の問いに父親はどちらの狼にもいちばん多く餌を与えると答えます。) イエスが教えていることは私たちの心をがらくたでいっぱいにするのではなく、よいもので満たす必要があるということです。この物語の婦人の罪はこの人だけのものではありません。彼女は私たち皆を代表しています。罪を犯した全ての人を代表しています。彼女は律法学者やファリサイ派の人たちを代表しています、彼らもまた罪びとであり、また告発者でもあります。私たちの罪は委託されたものであり、また自己正義のものでもあります。私たちは自分を他者より優れていると思ったり、より善い者だと思ふことで他者を傷つけるのです。

本日の神のこぼれ話で、神は全てを新しくするという神のメッセージを聞きました。私たちがイエスにより近づこうとするならば、生きている信仰において忍耐しなければならないのを識別する役に立つ基本的な命令をイエスは私たちにも与えます。「行きなさい。これからは、もう罪をおかしてはならない。」と婦人に言われたようにイエスは私たちにも言われます。人はいったん神に触れられると、あの神の命令を受け取ると、前と同じままではいられないのです。これは神と親密に接触したモーセや、イザヤ、エレミヤ、ペテロ、パウロほか何人もの人たちの経験であり、イエスに寄り添い続けた人たちの経験でもあります。

(Sr. Paulina)

「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます』 こう言って息を引き取られた」(ルカ 23, 46)。

これは、「ルカによる受難」での十字架の上に死んでゆかれるイエスの最後の言葉です。他の共観福音書では、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マルコ 15, 34. 参照 マタイ 27, 46)となっているのですから、この言葉の背景には、ルカが見たイエスの受難の重要な特色があるといえます。また、イエスの受難に向けての歩みは、「ルカによる福音」では、九章五十一節の次の言葉に始まると言われます。「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」。この表現には、今日の第一朗読イザ 50, 7 が呼応しています。「主なる神が助けてくださるから、わたしはそれを嘲りとは思わない。わたしは顔を固い石のようにする。わたしは知っている、わたしが辱められることはない、と」。ここから言えることは、「ルカによる福音」では、イエスは、十字架の死の意義をはっきりと知っており、それを実現するためには、どのような恥辱、苦しみをも耐えてゆく、との堅い決意に生かされていることです。イエスの死の意義とは、何か。これも、今日の朗読箇所から見えてきます。「父よ、彼らをお赦しください。自分がなにをしているのか知らないのです」(ルカ 23, 34) と、イエスは、自分を十字架の上で殺してゆく人々のためにとりなしをします。そして、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしといっしょに樂園にいる」と、共に十字架に付けられ死んでゆく犯罪人に声をかけます。このように、罪人の赦し、永遠の生命への門が開かれる、これが実現するのは、自分の死だけなのだと、イエスには分かっています。

ここで指摘しておきたいことは、日本語では、臨終、死の瞬間を表現するために使われている「息を引き取る」と訳出された単語は、聖書の原文では、確かに死の瞬間、臨終を意味するのですが、「息を吐き出す」というよりは、逆の方向を示しています。「そして、自分は空に、無になる」、これを示すニュアンスを持っている言葉です。自分の命を自分で握り締めているのではなく、手放して、御父に委ねきる、しかし、イエスがご自分の命のすべてを注ぎだす方向には、もう一つあります。それは、わたしたち、罪人である人間たちの上に、と言う方向です。神と罪ある人間の和解、罪の赦し、体の復活、永遠の命への門をすべての人に開く、御霊が注がれる新しい契約が締結される、それはイエスの十字架の死によってのみなのです。

ルカ渡辺幹夫

復活の主日(C) (ヨハネ 20:1-9)

復活祭の喜びは、世の終わりにおけるわたしたち自身の復活について、大きな希望と期待をもたらします。また“わたしは世の終わりでいつもあなたがたとともにいる”と宣言された、生きておられるキリストと一致して生きる確信を与えます。弟子たちにとって、復活は全くの新しい体験でした。弟子たちは“復活”といういのちの新しい光景を見ました。それはご受難の金曜日に目にした光景とは全く逆のものです。キリストの復活は、受難の日にキリストの十字架上で起こったことがキリストの単なる死ではなく、ご自分を人類への愛のために差し出される生贄としてのキリストであることを教えています。それはキリストの敗北ではなく、人の罪と死に対する勝利であり、終わりではなく素晴らしい偉大なことの始まりです。実際キリストの死は新しいいのちへの架け橋でした。ですからそれは終わりのないものです。復活祭は、究極として御父の人類に対する尽きることのない愛の祝典です。この日、御父はその大きな愛によって御子イエスをわたしたちに戻していただきました。復活のイエスは永遠にわたしたちと共に留まってくださいます。復活の祝日はわたしたちの希望の祝日です。イエスキリストの復活はやがてわたしたちにも起ることです。わたしたちもキリストと共に復活するのです。今日の主の復活の祝日はキリスト教的生活の中心となっています。それはわたしたちの信仰そのものであり、主の栄光に輝く未来への期待です。

復活の祝日は、わたしたちの信仰を確かなものにします。信仰は深く根を下ろし、イエスの復活に信仰の真の意味を見出します。聖パウロは、“もしキリストが復活しなかったら信じていることの全ては無益である”と言っています。復活のキリストの教えを人々に宣べ伝え、復活の主の証人となることは、御父のわたしたち各々に望んでおられることです。

福音の中で、イエスの復活されたしるしとなった空のお墓を体験します。マリアマグダレナはお墓の入り口に転がされている石を見て、一体誰がこんな重い石を動かせたのかと思ひあぐねました。すぐに弟子たちのところに行き主のお体が無いことを告げました。ペトロとイエスが愛しておられた弟子、二人がお墓に走ります。二人は告げられた通りの空になっているお墓を見て、主の復活の事実を理解し信じました。二人はこの時初めて、死者の中から復活させられることの意味を理解しました。

今日、復活祭の日、復活のイエスをもう一度わたしたちに贈ってくださる御父に感謝しましょう。復活されたイエスは弟子たちに会うたびに平和のメッセージを与え、教えはじめられます。この同じメッセージが今日イエスの復活を祝う私たちにも与えられています。主の平和がいつもわたしたちの心に留まり、一人一人を平和の使者として世に送り出してくださいように。

(Sr. Paulina)

あれから二年が過ぎようとしています。

3月11日、きっと日本中の誰もがそれぞれに「私の出来事」として思い起し、この日とあらためて向き合うのではないのでしょうか。

立っている地が揺らぎ、身を保っていたもの一切が、築き上げたもの一切が、根底から覆る怒濤の光景は、こうしている今でも目の内に魂の内に焼きついていて離れません。

私自身のことを云えば、日常の営みというもの、また、それを営む自分自身というものが、いかに危うく壊れるものであるかを、実はこの霊性センターニュースへの寄稿を通して直面せざるを得ませんでした。

265号誌に触れたことですが、当月用意していた原稿は、「水」への賛歌をテーマとしていて、内容等々かんがみて休載やむなくとなったのですが、抗うことの不可能な衝撃は思いの外大きく、私の日常ひいては私自身をも打ちのめしました。

無力のなかにひざまずくしかなかった私たちに、二年という月日は山積みの課題を抱えながらも、いくらかの落ち着きと回復をもたらしたのかもしれませんが、実際に現地を訪れている友人の話によると、人びとの気持ちを第一として、災禍の大きさは計り知れないといいます。週に一度新聞に掲載される死者と行方不明者の数は2月13日現在、死者15880名、不明2694名。重苦しく迫ってくる無言の訴えではないのでしょうか。今日この時も親愛の人を探す大勢の人がいるのです。

典礼聖歌「ちいさなひとびとの」が、これほどに心を揺さぶったことはありませんでした。

ちいさなひとびとのなかにキリストはいる
キリストは飢えている 渴いている 家がない 着るものがない
寂しく苦しんでいる

私たちの心は動かされて、自分のできることに精一杯をもって、そのキリストの近くに近くにありたいと願うのです。

上野毛教会の「震災の痛みを共に担うフリーマーケット」のちいさなお店は、あれ以来ずっと日照りの日も雨降りの日も雪の日も続けられ、集う人の祈りは絶えません。携わる人たちの献身的な尽力にキリストを想います。

スポーツクラブで一緒だった気仙沼出身のあの人、たくさんの親族を亡くし、

行方の分からない兄弟を案じ、もしかしたらわたしよりもはや彼らの方が安らかなのかもしれないと涙して、自らも心も体もずたずたに苦痛を負い、病を負って・・・そんなことを数回語り合ってから、ふつりと姿を見せなくなったあの人にキリストを想います。

「小さな人々の一人ひとりを見守ろう 一人ひとりのなかにキリストはいる」私の前に私の隣に私の後ろにキリストはいると気がついて、これまでよりも深い悲しみの心で、これまでよりも深い肯定の心で、人を、世界を、みるようになったと感じるのは、きっと私だけではないでしょう。眠ってはならないのだと、今日、心に刻みます。

日常生活の気配が消えた深更、果てがないような暗い静寂を心に沈ませ、主イエズスと二人だけの時を享受します。

黙考であったり、黙想であったり、まどろみのような、無重力のような世界であったり、我を忘れるかに底なしの底へとすべり落ちます。そして時には本の頁を開いたりもするのですが、辺見庸の「眼の海——わたしの死者たちに」は、いつも傍らにあります。言葉を辿り身に染ませ、主イエズスキリストを呼び求めます。その後の作品である小説のような詩のような「青い花」も、度々頁を繰りました。私には大変に難解であり、高尚にすぎるものではあるのですが、読みながらこみ上げる悲しみとも喜びともつかぬ感情に浸りました。

人間の限界というよりは深い罪を知らされ、それでもなお小さな人びとの涙によって清められる、私たち一人一人の尊厳を教えられる思いで読みました。

深更、心に沈ませた暗い静寂のなか、全身に響いてくる問いかけを忘れたくはありません。「わたしを愛するか」。

あれから二年が過ぎようとしています。

「眼の海——わたしの死者たちに」の中の最もちいさな（短い）詩です。

髪梳く

しずかに長い髪を梳いた／ スィー・スィーと音がした
夜を梳いた／ 髪が海にながれ／ 海はすべての
死者の夜の／ 内部となってながれた

「世の罪を除きたもう主よ われらをあわれみたまえ」



今年度からセワ・ケンドラの通所者となったスラジ。

14歳だというが、からだは小さく、まるで幼児のような感じ。

耳は聴こえているようだが、言葉はしゃべれない。

スッカが彼に目をとめたのは、彼のそのあとけないともいえる笑顔。
とにかく、いつもニコニコしている。

セワのミナ先生が教えてくれた。

「ピツシャース」というと、うれしそうに笑うのよ。お母さんから聞いたの」
日本語でいうなら「おめでとう」でもいいうような意味らしい。

スッカは彼に「ピツシャース」を連発。

そのたびに、彼はうれしそうに笑う。 声をあげて笑う。

その笑顔にほんとうに癒される。 こちらまでフツと笑える。



笑顔って、なんという力を持つものだろう。

(ダンスをするシシールとスラジ)

セワ・ケンドラの大先輩のシシールは、
スラジによくかまう。

ダンスのときは、スラジの手をとってクルクルまわしたり……………

スラジはキャッキヤと喜ぶ。



(シシールとスラジ)

スラジの笑顔を見ていたら、表題の聖書の言葉を思い出した。

「いつも喜んでいる」って、周りを幸せにすること。

小さなスラジが教えてくれた。

注： セワ・ケンドラ → ネパールのポカラという街にある知的障害者施設

安達 恵子

いのちの言葉 3月

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、
まず、この女に石を投げなさい。

(ヨハネ 8・7)

イエスが神殿で教えておられた時のことです。律法学者やファリサイ派の人々が、姦通の現場で捕らえられた女を連れてきて、イエスに言いました。「こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。あなたはどうかお考えになりますか」と。(ヨハネ8・5)

彼らがこう尋ねたのは、イエスを陥れるためでした。というのも、もしイエスが石で打ち殺すことを認めなければ、律法に反する行為として訴えることができたからです。実際、モーセの律法によれば、罪を犯した者に、まず証人から石を投げ、民衆がそれに続くことになっていました。一方、もしイエスが死刑の判決に同意されるなら、罪人に対する神の憐れみを説く教えに矛盾すると、彼らは非難したことでしょう。

これに対してイエスは、動揺されることなく、かがみ込んで指で地面に何かを書いておられましたが、身を起こしてこう言われました。

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。

このイエスの言葉を聞いて、人々は年長者から始まって、一人また一人と立ち去っていきました。イエスは女の方を向いて、お尋ねになります。「あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか」と。彼女が「主よ、だれも」と答えると、イエスは言われます。「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。これからは、もう罪を犯しては

ならない」と。(ヨハネ8・10-11 参照)

こう言われたからといって、イエスが姦通などの悪を認めておられないことは明らかです。「行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」というイエスの言葉は、神の掟がどのようなものかをはっきり示しています。

自分も罪人だと気づかないで、罪を犯した「姉妹」に裁判官のように振る舞う人々の偽善的な態度を、イエスは明らかにされます。「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれる」(マタイ7・1-2)というみ言葉はよく知られていますが、イエスは先ほどのようにおっしゃりながら、この教えを強調されます。

またイエスの言葉は、罪を犯した人が心の中で悔やんでいるかもしれないのに、情け容赦なく非難する人々に対しても向けられています。イエスは、過ちを犯した人にご自分がどのような態度を取られるかを、はっきりと示されます。それは、憐れみを抱くことです。人々が立ち去った時、そこには『『憐れな』者と、『憐れみを抱かれた』方の二人だけが残された』(*1)とヒッポの司教聖アウグスティヌスも言っています。

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。

では、このいのちの言葉をどのように実践できるでしょうか。

どんな兄弟姉妹を前にしても、私たち自身も罪人だということを思い起こしましょう。たとえ重大な過ちは犯していなくても、だれにでも罪はあるからです。そして、大変な状況によって、だれかがひどい状態に陥ってしまい、神様から離れてしまったとしても、そのようなことは自分にも起こり得ると、いつも心に留めているべきです。私たちも彼らの立場だったら、どうなっていたでしょうか。

また私たちも、神様と自分を結ぶ愛の絆を断ち切ってしまい、神様に忠実でなかった時もあったでしょう。

罪のない唯一のお方であるイエスが、姦通の女に最初の石をお投げにならなかったのですから、まして私たちは、だれに対しても、そうできないでしょう。

では、すべての人に対して、憐れみの心を持つようにしましょう。だれかを裁く思いがわき起こる時には、自分と戦うことが必要です。相手を赦し、それを忘れることです。心の中に、裁きや恨む気持ち、少しも残らないようにしましょう。さもないと、そこから怒りと憎しみが生まれ、私たちを兄弟から遠ざけてしまいます。兄弟の一人ひとり、新しい目で見るとともにしましょう。

私たちが、一人ひとりに対して裁きや非難の思いではなく、愛と憐れみの心を抱くなら、相手が新たに生き始めるのを助け、やり直す勇気を与えることができるでしょう。

キアラ・ルービック

* 1 : 「ヨハネによる福音書 講解説教」
33-5

* 今月の言葉は、1998年3月に発表された
ものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活
の中で実践するための助けとして、書かれた
ものです。

み言葉を生きて

今居る所の隣人は若い男性で、なかなか挨拶も出来ないというタイプだったのですが、私はドアの前で会うと「こんにちは」と言い続けていました。又、風の方向によっては玄関先に雪がたまるので、私の所とついでにお隣さんの所もきれいにしていましたら、何と1月頃から私の所をいつもきれいにしてくれているのに気が付きました。神さまを知らない人と一緒に歩くのが私の仕事と思っているので、彼が変わっていく様子がとても嬉しく、更に祈り続けています。ほんの小さいことですが感謝の祈りを捧げます。」

(札幌 G)

●お知らせ

家庭的な喜びの雰囲気の中で
関東：

いのちの言葉の集い

とき : 3月10日(日)

13時30分から

ところ：カトリック藤沢教会

204号室にて

一日マリアポリ

とき : 3月20日(水・祝)

10時30分から16時まで

ところ：聖イグナチオ教会

ヨゼフホール(四ツ谷駅から徒歩1分)

連絡先

フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (67)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

学問のある人か、ない人か

事は、バエサで (1579—1581) 起きました。マリア・デ・パスは、どんな聴罪司祭にも満足しませんでした。いつも立派な人、学問のある人を探していました。そして、彼女自身が、十字架のヨハネ神父との間に起きたことを、楽しそうに私たちに語ってくれたのです。

「…彼に告解した最初の頃、彼を聴罪司祭と見なし、絶えず彼に告解するよう心すべきなのかという考えや誘惑に悩みました。このように、この証人の考えでは、悪魔の反対にひどく苦しめられたのです。彼女を苦しめた考えの一つは、学問のある人のようには見えない人に告解することに自分は束縛されねばならないのかというものでした。彼女を理解しようといまいが。

この考えは、彼女の心の中だけのことで、だれにもこのことは言いませんでした。ある日、この証人が、この考えにつきまといわれ、告解にやって来たとき、くだんの聖なるヨハネ神父は、彼女にこう言いました。

『娘よ、私は自分の罪ゆえに学問のある者です』。

彼女の誘惑を見抜いたがゆえに (実際、他の方法でそのことを知ることはできなかったのです)、そう言ったのがよく分かったにもかかわらず、この証人が弁解しようとしたとき、くだんの聖なる神父は、なぜそのようなことを言ったのか彼女に語りながら、こう言いました。

『娘よ、そう言うことが必要だったのです。だから言ったのです』。

この場合は、明らかなように、十字架のヨハネには、文法や辞書を調べたり、“ser” と “estar” の区別を頼りにする必要はありませんでした。彼は、母テレジアが望んだように、学問があり、良識のある人だったのです。

この出来事に遭遇したマリア・デ・パスは、次のようなとてもきれいな話も残しています。「…彼が、私たちの主をとっても愛し、神が喜ばれるように、絶えず祈っていることを知りました。その顔の表情が、祝日に従って変わっていくのに気づきました。聖人が祝日や季節に従うことによって、神への細やかな情愛が彼にもたらされていたのだと、この証人は確信しています。

— 私たちの主イエス・キリストの受難節であるならば、この方が担った感情が目に見えるものとなりました。

— 降誕節であるならば、何とも言えない優しさがその顔に表れていました。

— その他の祝日でも同様でした。

つまり、この崇拜者にとって、十字架のヨハネ修士は、折々の典礼の季節の人のおようであったということです。昔の人々が言っていたように、彼女は、彼の中に典礼歴を読み取っていたのです。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（163）



奴隷状態から呼び出されていること

教会は、神の民です。「教会」というラテン語”ecclesia”は、ギリシャ語の「そとに」を意味する”ek”と「呼ぶ」を意味する”kaleo”に由来します。教会は、奴隷状態から自由へ、罪から救いへ、絶望から希望へ、闇から光へ、死へ向かう存在から命へ収斂する存在へと呼び出された、神の民なのです。

教会について考える時、共に旅している神の民全体のことを考えなければなりません。あらゆる年齢と民族と社会の女性や男性や子供たちを思い描かねばなりません。彼らは、最終目的であるふるさとへの長い、しばしばうんざりする旅路において、お互いに支えあっているのです。

(1016)

神の民の大きなネットワーク

聖人たちとは、神の聖なる民のことです。使徒パウロは、キリストに属するすべての者を、「聖なる民」とか「聖人たち」として語っています。彼は、その手紙を「キリスト・イエスによって聖別された人々、神の聖なる民へと召された（呼び出された）人々」（1コリ1・2；エフェ1・1参照）に宛てて書いています。この聖性は、イエスの霊の働きです。パウロもこう言っています。「私たちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは、主の霊の働きによることです」（2コリ3・18）。

聖人として、私たちは、宇宙の暗い夜空に輝く無数の星のように、神の民の大きなネットワークに属しているのです。

(1111)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会 総長の手紙

教皇様への心からの感謝

サベリオ・カンニストラ総長, ローマ発 イタリア
2013年2月15日

教皇様ご退位のニュースが東から西へ、南から北へ、瞬く間に跣足カルメル会の修道家族に伝わった後に、このお手紙をぜひお送りいたしたく存じます。教皇様のお言葉は私たちに深い感動を与えたからです。

洪水のように押し寄せる様々な思いのなかで、私たちが何よりもまずお伝えしたいことは感謝の気持ちです。世界中にいる何億の信者の皆様と同様、私たちテレジア的カルメル会の修道女、修道者、在世会の会員は、心からの深甚の感謝の意を表します。

聖ペトロの座からなされた教会への奉仕において、私たちは教皇様のうちに、イエスへの信仰へと入ってゆく開かれた扉を見せていただきました。私たちは、聖なる母テレサから受けついですべての熱意と感動をもってしても、この感謝の意を十分にお伝えすることができないほどです。教皇様が日々、福音を優しく意味深く宣べ伝えられるのを聞いて、私たちの心は父であり師である教皇様のお言葉にとらえられておりました。

私たちは、喜びと信仰をもって、毎日、信仰の美しさをさらに味わいながら、招かれた道を歩んでおりました。今日ここに、教皇様の人生とその模範を、十字架の聖ヨハネの言葉の光のうちに観想させていただくのをお許してください。”私の魂はそのすべての力をあげて、彼にお仕えしています。私はもはや群れを守りません、もう他の務めもありません。ただ愛することだけが私のすること。”

教皇様のメッセージには、これから教会への教皇様のご奉仕は、とりわけ祈りによってなされるであろうとありました。このご奉仕がどれほど価値あり偉大なものであるか

を、私たちテレジア的カルメル会はよく理解しております。愛するお方を探し求めて、この新しい旅に私たちも同伴させていただくことをお許しください。

私たちは、率直に申し上げますと、教皇様をまだ必要としております。もしこれからは、教皇様のお言葉を聞いて楽しむことができないのであれば、私たちは教皇様の沈黙の愛、隠れた祈り、そして兄弟的な取り成しにより頼むことにいたします。神様は、今、教皇様が体験されている弱さを、私たちキリスト者、修道者がその責務を果たしていくための励みとなる強さへと変えてくださることでしょう。

小道を作られるのは神様で、確かにその道は私たちの道ではありません。教皇様、いつも私たちとともにいて、この世の暗い谷を渡るために、元気と勇気を与える羊飼いの声をこれからも聞かせてください。私たちは悲しみながらも教皇様のご退位の決意を受け入れることにいたします。しかしそのお言葉の中に、イエスが弟子たちに言われた言葉と同じ響きを感じます。”私を愛しているなら、私が父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。”イエスのように教皇様もご退位に際し、ご幼少の折からこの最後の年にいたるまで共におられた聖霊を私たちに遣わしてくださると確信しております。

どうか、私たちのささやかな祈りをお聞きいれください。教皇様が勇気と威厳と確信をもって、また何よりも真実の謙遜をもってその使命を遂行されたことに対して、私たちが感謝の意をあらわすことができるのは、祈りだけです。教皇様の証しは、そのような証しを現代教会が大いに必要としているこの時、私たちに自分の人生を神に捧げる勇気を与えてくださいます。聖テレジアが言ったように、”そのような素晴らしい目的のために失う人生は、何と幸いでしょう。”

私たちは、教皇様のご意向を、いつも私たちがイエスの愛に生きることを望み、私たちがイエスへと導いてくださるカルメル山の女王であり母である聖母マリアにおゆだねいたします。



***** マリア様のマントの絵のお話 *****

「マリア様はとっても忙しい。だって子供が六十億人もいるんだもの。この地球だけでもだよ。まだまだ宇宙には地球みたいな星がいっぱいあって、いっぱいマリア様の子供たちがいるんだ。

だからマリア様は子供一人ひとりのところに現れるために、マントに羽をつけている。それではらはら、ひらりと蝶が飛ぶように風に吹かれながら飛んでいくんだ。さわるとクリームみたいにあったかくて柔らかい羽根だよ。

さあ今日は君のところに来てくれるよ。窓から来るかと思って外をのぞいていても、マリア様はときどきいたずらっ子だから、電話の受話器からも現れたりするんだ。」



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2013年 3月28日(木)～31日(日)《講話なし、各食事つき》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

3月 7日	「イエスとの出会いをもたらす宣教」	中川博道神父
7月 4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月 5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

3. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

4月19日	「カルメルの霊性・預言者聖エリア」	福田正範神父
6月 7日	「カルメルの霊性・ロスアンデスの聖テレサ」	古川利雅神父
10月 4日	「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」	古川利雅神父
2014年		
1月24日	「カルメルの霊性・聖母マリア」	福田正範神父

4. 奉献生活者の為の黙想会

2013年

7月29日(月)18時～	8月 7日(水)	九里彰神父
8月12日(月)18時～	8月21日(水)	福田正範神父
10月 7日(月)18時～	10月12日(土)	福田正範神父
12月27日(金)18時～	2014年1月5日(日)	古川利雅神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

4月27日(土) 15時～29日(月・休) 16時

11月 2日(土) 15時～ 4日(月・振休) 16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土) 15時～23日(月・休) 16時

7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2013年

3月17日(日) 18時～3月19日(火) 16時 「過ぎ越しの子羊・キリスト」

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金) 20時～26日(日) 16時

11月 8日(金) 20時～10日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル会四旬節講話シリーズ

●テーマ：神との出会いを求める人々の母 聖テレジア
—アビラの聖テレジアのテーマに沿って:2015年・生誕500年祭に向かって—

●場 所：カトリック上野毛教会聖堂 (東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル修道会 (TEL 03-3704-2171)

●日 時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料

(講話後、主日のミサ)

2月17日 中川 博道神父(カルメル修道会)
『テレジアのイエスに出会う』

2月24日 松田 浩一神父(カルメル修道会)
『テレジアの人間観』

3月 3日 九里 彰神父(カルメル修道会)
『私は教会の娘です』

3月10日 片山 はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ)
『現代人のための祈りの道—テレジアとともに』

3月17日 渡辺 幹夫神父(カルメル修道会)
『時代の危機の中で成熟していく信仰』

木曜黙想会

2013年度年間テーマ《信仰と宣教》

イエスとの出会いをもたらす宣教

日 時： 2013年3月 7日（木） 10時～16時

指 導： 中川 博道 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・ TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・ *黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX, メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

聖週間前の黙想会

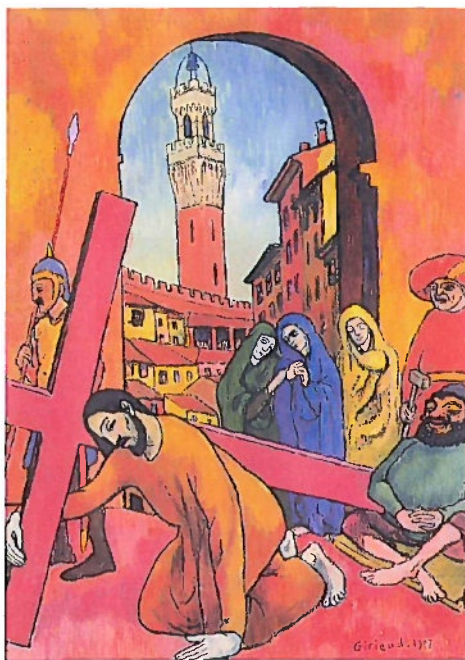
過ぎ越しの子羊・キリスト

日時： 2013年3月17日(日) 18:00~19日(火) 15:00

指導： 福田正範神父

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費： ¥11,000



お問合せ、お申込み：TEL. 03-5706-7355 FAX03-3704-1785

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093世田谷区上野毛2-14-25

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

* 日時: 3月28日(木)夕食~31日(日)朝食後 10時まで

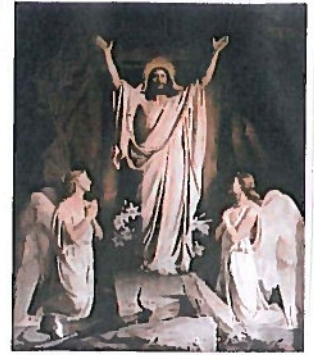
28日(木)は、午後3時より入室できます

* 費用: 一泊¥5000(一泊から可)

* お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1764

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



*****上野毛教会聖週間の典礼ご案内*****

3月28日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
3月29日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
3月30日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
3月31日	復活の主日	7:00 8:30 10:30 18:00	

金曜黙想会

2013年度年間テーマ《カルメルの霊性》

「カルメルの霊性・預言者聖エリア」

日時： 2013年4月19日（金） 10時～16時

指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



カルメル青年黙想会

“信仰の師” 十字架の聖ヨハネ

十字架の聖ヨハネは、教会博士の中でも神秘博士と呼ばれ、信仰を特に強調していることから、前教皇、福者ヨハネ・パウロ2世は十字架の聖ヨハネのことを“信仰の師”と表現し、その教えについて次のように語りました。「信仰の道において彼の教説は、すべてのキリスト信者にとって、不可欠な重要性を持っています。特に現代のように、新しい道を踏査しながらも、信仰の分野を危険と誘惑に曝している時代においてはなおさらのことです。」

信仰年を迎えている今、キリスト者にとって、日常生活の光、道しるべとしての「信仰を生きる」こと、キリストと共に生きる生活とはどういうことなのか、“信仰の師”である十字架の聖ヨハネに聴きながら共に学んでみませんか。



- 日時 : 4月27日(土) 15時 ~ 29日(月) 16時
- 場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
- 対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
- 定員 : 20名
- 費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
- 締切 : 4月20日(土) <必着>
- 指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 電話 : 03(5706)7355
 FAX : 03(3704)1764
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp





講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

4月19日

5月17日

6月21日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

≪10:30~12:00≫

夜のクラス・金曜日

≪19:15~20:45≫

3月12日

3月15日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

20	3月8日	「秘跡」(1)
21	3月22日	「秘跡」(2)
22	4月12日	「聖書への親しみを持つことから」
23	4月26日	「天地創造の物語を読む」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

5月25日(土)～26日(日) 三位一体の中で祈る	今泉健神父
7月13日(土)～14日(日) 信仰宣言に生きるカテキズム	松田浩一神父
9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト	今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い	九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

4月6日(土)	九里彰神父
6月1日(土)	九里彰神父
9月14日(土)	九里彰神父
11月30日(土)	九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

3月20日(水) 十字架	今泉健神父
4月17日(水) 復活の信仰	九里彰神父
5月15日(水) 信仰年における聖母マリア	松田浩一神父
6月26日(水) 靈魂の城	今泉健神父
7月24日(水) 信仰の種	九里彰神父
8月4日(水) キリスト信者の靈的生活のカテキズム	松田浩一神父
9月16日(水) アピラの聖テレジアとイエス	今泉健神父
10月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム	松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心	今泉健神父

- 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

3月2日(土)～3月3日(日)	今泉健神父
光への飢え渴き	

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日)	松田浩一神父
人間となった神の子への信仰	

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火)	伊従信子師
-------------------	-------

【キリスト教靈的同伴】

(午後8時～午後3時) 限定10人

5月2日(木)～5月6日(月)	松田浩一神父
-----------------	--------

カルメル青年黙想会（午後5時～午後4時）

4月28日（日）～4月29日（月） 今泉健神父
キリストの呼びかけに従う

11月9日（土）～11月10日（日） 今泉健神父
キリストはあなたを呼んでいる

【一般のためのカルメルの霊性入門】

3月16日（土）（午前10時～午後4時） 古川利雅神父
10月26日（土）～10月27日（日）（午後5時～午後4時） 松田浩一神父
「テレサ的カルメルの霊性 No. 1」

奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月2日（金）～8月11日（日） 松田浩一神父
8月17日（土）～8月26日（月） 今泉健神父
12月27日（金）～1月5日（日） 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月28日（木）～3月31日（日） {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日（火）～12月25日（水） {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

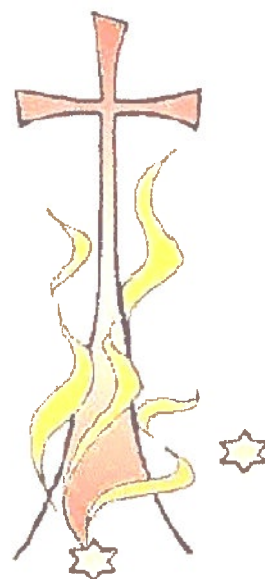
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ③ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一泊静修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一泊静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC（キリスト者婦人の集い）
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ 2, 46 ヨハネ 2, 21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ 1, 14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr. マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
 「古代と教父時代」(BC 5世紀—AD 6世紀)
 [古典古代]

4/06、4/20、5/11、5/18、5/25、6/01

[教父時代]

6/08、6/29、7/06、7/13、7/27、9/07、9/14

●ミサ

水曜日 17時10分—18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分—20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分—12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時—18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)—9月1日(日)18時—20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分—16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

4月6日、5月11日、6月8日、7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分—16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

06月15日(土):10時—16日(日)14時(東村山)

09月28日(土):10時—29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時—17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時—9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分—6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分—20時10分

・木曜日 18時—20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
 3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

・4月27日(土)20時30分—5月4日(土)10時

6月21日(金)20時30分—23日(日)13時

8月10日(土)20時30分—17日(土)10時

9月20日(金)20時30分—24日(火)10時

11月1日(金)20時30分—11月4日(月)13時

[宝塚市]

・4月13日(土)13時30分—14日(日)16時

7月30日(火)17時45分—8月5日(月)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時—18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

4月20日(土)、6月30日(日)、10月20日(日)、2014年1月25日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

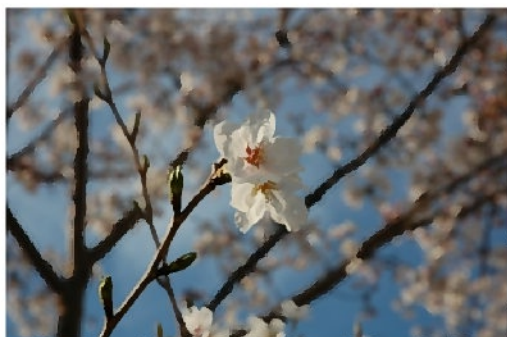
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2013年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 3/01 人間の苦悩— 悪とは何のためか
3/08 死— その受け入れと克服
3/15 人生の完成— 神の内に生きる
3/22 聖母マリア— 信じる者の原型
3/29 ○休み
3/31 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クル
トゥルハイム2階、80人限定)
- 4/12 信仰の道— 人生の意義を問う
4/19 聖書の人間像— 人間の現状と使命
4/26 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
5/10 理性と神認識の道— 世界内存在を通し
て
5/17 創造された世界— 人間存在の根拠と
自然の意味
5/24 歴史と信仰— 神との出会い
5/31 内なる神— その「似姿」としての人間
6/07 新約聖書の神理解— 主なる父
6/14 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
6/15-16●黙想会(東村山)
6/21
救い主の役割— 人類の待望
6/28 神の国— イエスの告げるメッセージ



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2013年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [教会]
3/05:人間と世界の究極の未来—— 終末の約束
3/19:信仰者の原型—— 聖書と教会の教えに見
られるイエスの母
3/31:◆復活祭ミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人
限定)
[人生の基礎づけ]
4/16 人間の尊厳—— 自律と自己超越
4/30 ○休み
5/07 人生の目標—— 神の「似姿」としての真なる
人間
5/21 人間以外のものの意義—— 世界の使用と聖
化
6/04 創造・歴史・救い—— イエスという中心
6/15-16●黙想会(東村山)



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
3月23日（土）

講話 伊従信子 片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

召命黙想会

テーマ：聴く心ーキリストとともに働くー



5月3日(金)午後2時～5日(日)午後2時

指導：英 隆一朗神父（イエズス会）

対象：35歳までの独身女性

場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院

(小田急線町田駅下車、バスで約15分)

締切日：4月20日(土)

定員：10名

参加費：15,000円(往復の交通費は各自でご負担下さい)

申込み・問い合わせ：お電話でお申込みください。

マリアの御心会 03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
① 3月 5日(火)～ 3月13日(水)
② 8月14日(水)～ 8月22日(木)
③ 9月27日(金)～ 10月 5日(土)
④ 12月27日(金)～ 2014年1月 4日(土)
- B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2月 8日(金)～ 10日(日) ② 4月 5日(金)～ 7日(日)
③ 5月 3日(金)～ 5日(日) ④ 6月14日(金)～ 16日(日)
⑤ 7月 12日(金)～ 14日(日) ⑥ 11月 1日(金)～ 3日(日)
⑦ 11月 29日(金)～ 12/1日(日)
- C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師 (京都教区)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
- いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門 A	4/21(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
サダナ II	4/25(木)17:30- 4/29(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教会 (東村山)	若山美知子※
ダイアリー	5/2(木)17:30- 5/6(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教会 (東村山)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/11(土)9:30- 5/12(土)17:00 5/18(土)9:30- 5/19(土)17:00	Fr植栗	町田祈り・研修の家	若山美知子※
サダナ I	5/30(木)17:30- 6/2(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	申込み: Sr 比嘉
日帰り (注)	6/9(日) 9:30? 17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門 B	6/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)16:00	Fr ラフオント	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子 Tel:078-811-2706
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(日)昼食	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
霊操と II	8/17(土)17:30- 8/26(月)朝	Fr植栗	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み: 西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナ I を終えた方

*サダナ I = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナ II = I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

4月9日（火）『完徳の道』第30～第31章

6月11日、7月9日、9月10日、11月12日、12月11日



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月10日（水）『靈魂の城』第4の住居の第3章

6月12日、7月10日、9月11日、11月13日、12月12日

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

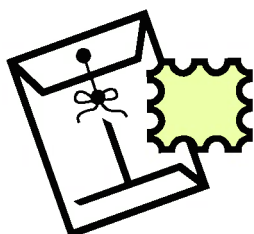
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月、バレンタイン・デイの日に、私たちの会のイタリア人の修道助祭が帰天した。あと少しで98歳であった。日本に住んで約60年、日本に来る前に約20年、合計80年の長い修道生活であった。

最晩年は宇治の修道院で過ごしたが、足が不自由になり、年々、できる仕事の一つまた一つと無くなっていった。本人にとって、それは、どんなにつらかったことであろうか。仲間のイタリア人神父の話では、若い時、自分は、イエスさまや弟子たちを家に迎え入れ、お世話したマリアやマルタのように、司祭たちに仕えたいのだと、よく言っていたようである。また祭壇でも司祭たちの手伝いをしたいという思いから33年前、65歳の時に終身助祭となっている。だがこれも、3~4年前からは、祭壇に立っていられなくなり、奉仕できなくなっていた。

自分にできることが少なくなっていくたびに、彼が味わっていたであろう落胆、悲哀に、私はどこまで兄弟として気づいていたのか、自分の中にある「石の心」に気づかされる。「主よ、あわれみたまえ」。(P. 九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、[毎月最終週の火曜日](#)に行われる事になりました。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「4月号」製本日

[3月26日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、[製本日をご確認下さい](#)。霊性センター係

TEL 03・3704・2171